

測量資料館めぐり

第4回 | 高萩市歴史民俗資料館(長久保赤水記念館)

表紙の
解説

2024年の月刊「測量」の表紙は日本の各地にある測量に関する博物館や資料館などがテーマです。4月号では高萩市歴史民俗資料館(長久保赤水記念館)を紹介します。

1. はじめに

高萩市歴史民俗資料館では、高萩市が誇る先人「長久保赤水」の資料を中心に、植物学者「松村任三」関係資料や市内で発見された考古資料、歴史資料等を保存・展示しております(写真-1、写真-2)。

令和6年4月には、館の魅力向上、市内外の皆様への情報発信の強化等を図るため、愛称を「長久保赤水記念館」と決めました。

今回は、館の愛称にもなった「長久保赤水」とその関係資料について紹介します。

2. 長久保赤水

長久保赤水(1717-1801)(写真-3、写真-4)は、水戸藩の儒学者で、晩年に第六代水戸藩主徳川治保の侍講(直接勉強を教える役目)を務め、大日本史地理志編纂に従事したほか、日本図や中国図等の出版を行いました。

特に赤水が制作した「改正日本輿地路程全図」は、当時において格段に正確な地形と、豊富な地名・路程を記載した地図で、赤水没後にも版を重ね、江戸時代中後期において最も社会に普及した日本地図として著名です。

長久保赤水関係資料は「江戸時代中後期の文化史、

地図史等の研究上に価値が高い」と評価され、令和2年9月に国の重要文化財に指定されました。



写真-2 展示物



写真-3 長久保赤水肖像画

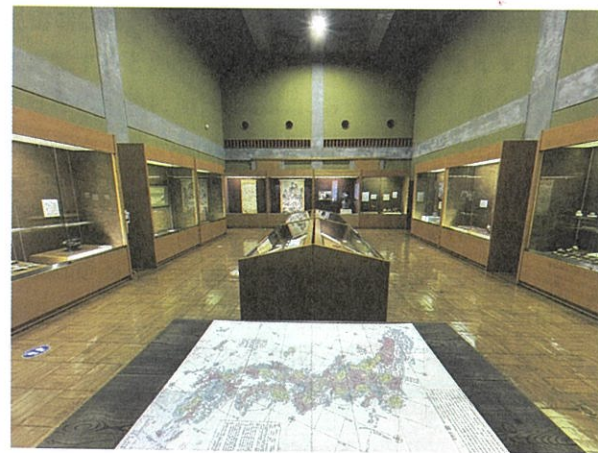


写真-1 資料館展示室

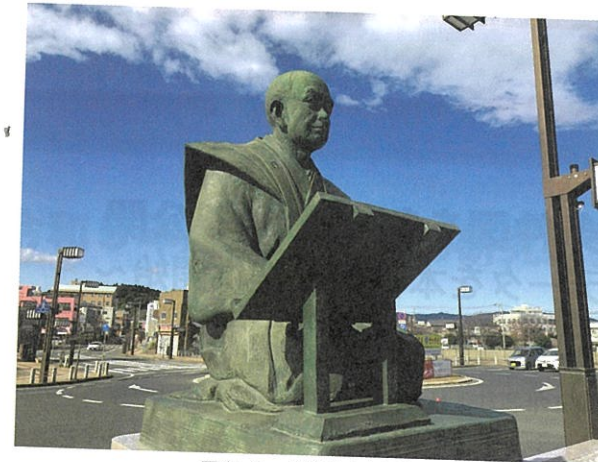


写真-4 長久保赤水銅像



写真-5 改正日本輿地路程全図

3. 赤水の日本図

赤水は、日本図作成にあたり測量を行っておりません。そのため「測量を行わず、なぜこのような正確な日本図が作れたのか」と、資料館にお越しいただいた方からもよく質問をいただきます。

伊能忠敬の日本図(大日本沿海輿地全図、通称：伊能図)が「実測図」であるのに対し、赤水の日本図(改正日本輿地路程全図、通称：赤水図)(写真-5)は「編集図」であります。

赤水は膨大な情報(国絵図や日本図、漢書、当時の知識人からの情報等)を収集し、自身も検証の旅に出るなどして精巧な日本図を作り上げました。また、天文学等の知識を地図製作にも生かし、正確な日本の形を捉えることができたと考えられています。

また赤水図は、日本初の経緯線が投影された刊行日本図であり、海岸線だけでなく、多くの地名や街道、河川、関所等の情報が含まれています。

情報量の多さとその使い易さ等から、赤水図は、幕府の秘図であった伊能図と異なり、江戸時代の庶民に

長い間(5版まで改版を重ね)愛用されています。

4. 長久保赤水記念館での展示

長久保赤水記念館では、赤水図やその草稿、朱書きのある国絵図等の日本図制作に関する資料をはじめ、藩主や友人たちとの交流を示す資料、家族に宛てた書簡など、赤水の功績と人物像に迫る資料を展示しています(時期により展示は異なります)。

また、赤水資料の一部は、経年に伴う汚損等が発生していたことから、現在修復作業を行っております。先人の偉業を未来に繋いでいくため、慎重に修復作業を行いながら、その成果を広く発信してまいります。

5. おわりに

令和6年11月に高萩市は市制施行70周年を迎えます。この節目の年に、長久保赤水を含めた高萩市の歴史をより多くの皆様にご覧いただく「きっかけ」となるような企画展やイベント等を実施してまいります。

ぜひ多くの皆様のご来館をお待ちしております。

(高萩市 教育委員会 田中 達仁)

高萩市歴史民俗資料館(愛称：長久保赤水記念館)

〒318-0034 茨城県高萩市高萩8-1

TEL. 0293-23-7229

〈アクセス〉

電車：JR常磐線高萩駅から徒歩15分

自動車・バス：常磐自動車道 高萩インターチェンジから10分

〈ホームページ〉

https://www.city.takahagi.ibaraki.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/page000104.html

